二二　西亞輓今の形勢は如何

答　西亞には現今邦國四あり、亞富汗、彼斯、俾路其斯坦、土耳其、是なり。十七世紀の末露のペートル大帝領土擴張の志を懷き、其子孫遺業を繼いて漸次亞細亞の地を蠶食しアフガン以北の地悉く露の屬となる、是の時に當り英國は印度を征服して之を統一せしかば露の南侵を懼れて之を豫防せん爲め西亞諸國を援けて之れが維持に汲々たり是を以て亞富汗の地は英露二國爭覇の地點となり遂に千八百八十五年兩國條約を定めて此地を局外中立となせり又俾國は露國に私しありとの英人の疑を受け變亂に乘じ其土地を割かしめ、今は全く英の所領となる、又土耳其は漸次露國に侵され其の地を分割せらる

三、朝　鮮

二三　朝鮮と日本の關係を示せ

答　朝鮮半島は古來我が日本と關係甚だ深し、我が國が始めて支那の文物を傳へしも佛教の經論を傳へしも皆朝鮮の媒介に由りしなり。

二三　朝鮮五國の史的區別を記せよ

答　朝鮮は西紀後九百年以前に在ては未だ統一する處なく數多の小國の割據する處たりしも其後高麗五國起りて之を一統し、次で今日の朝鮮王國とはなりしなり今年代により て之を區別すれば左の如し

第一期　古朝鮮王國の代（紀元前五〇年頃まで）
第二期　三國鼎立時代（紀元後九百年頃まで）
第三期　高麗王國時代（凡五百年間）
第四期　新朝鮮王國時代（凡五百年間）

二四　古朝鮮時代は如何

答　朝鮮の古歴史は漢として知るべからざるも、支那に於て周室興隆せし時殷の遺臣に賢人あり箕子といふ周主之を朝鮮に封して王となす箕子平壤に都し黄海道以北の地を領す其子孫相傳へて此地に王たること四十一代なり、四十一代の時支那人衛滿來り住み漸く勢を得遂に王を逐ひて自立す、衛滿の子孫相傳ふこと三代にして西漢の爲めに亡さる當時漢江の以南今の慶尙、全羅、忠清道の地に三小國あり、馬韓、辰韓、辨韓といふ。

二五　三國鼎立時代を記せよ

答　支那西漢の末頃朝鮮に三强國あり新羅、百濟、高麗是れなり其後に至り又一小國興

ろこれを任那といふ　此の國弱くして新羅百濟の間に在り自ら支ふる事能はずして援を日本に請ふ、是れ實に我が朝崇神天皇の時なり、此の後三十九代欽明天皇の時まで任那は日本の領土たり。

二六　高麗百濟の滅亡を記せよ

答 神功皇后の新羅を征服して屬國となすや百濟高麗も相踵て降りしが其後新羅百濟は互に攻伐して止む時なし支那隋の世高麗は隋に攻められしが能く拒きて遂に之を退けたり、下りて唐の時新羅は高麗百濟の聯合に攻められて敵する能はずして援を唐に乞ふ唐軍遂に高麗百濟を亡ぼせり百濟の亡滅は西紀後六百六十三年にして高麗の亡ひしは六百六十八年なり此の後新羅は百濟の地を取りしも高麗の地をは取る事を得ざりし、これ遼東に勃海と號する强國起り東侵して高麗の地を取りしが故なり、

二七　高麗王國の代は如何

答 支那五代の世新羅衰微し朝鮮の全土大に亂れ四分五裂す、之れを一統したる者を王建といふ王建王位に即き松嶽に都し國號を高麗と稱す、支那の宋の時支那北方に三强國の興るあり、遼、金、元といふ、高麗も又其侵寇に遭ひ、元の世祖の時高麗王其命を受け、日本を勸誘して元に隷屬せしめんとす日本應せず此に於て高麗人元軍に從ひて日本を

侵す是れ日本國史に所謂弘安の役なり、其後支那の明の初世高麗の大將李世桂なるもの國難に乘じて廢立を行ひ終に讓を受けて王位に即くこれ今の朝鮮王國の祖なり、時に西紀後千三百九十二年なり、

二八　朝鮮王國時代の重なる事蹟を記せよ

答 李氏朝鮮の王となりて以來今日に至まで歷朝の間著るしき事變を擧ぐれば左の如し

一　倭寇の奪畧
二　日本の征畧（所謂太閤の朝鮮征伐）
三　清軍の侵攻
四　日清戰爭

倭寇の奪畧とは我朝足利代の末內地に志を得ざるもの朝鮮沿海の地に航して奪畧を事とし大に其人民を害したるものあり又日軍の征畧とは有名なる豐公の軍が八道を蹂躙せしものにて朝鮮全國に非常の大影響を蒙りし大事件清軍の侵攻は清の勃興の際朝鮮が明國を援けたるにより其の侵畧を受けたるものなり

二九　日清戰爭の顚末を記せよ

答 日清戰爭は日清の兩國が覇權を朝鮮に爭ひし結果にして當時朝鮮に二大政黨あり、

一を事大黨といひ、他を獨立黨といふ前者は清國に依り他は日本に依りて朝鮮の獨立を堅くせんとす、政黨の軋轢是の如く甚だしきに加へて宮廷にては王妃閔氏と王父大院君との軋轢あり、爲めに京城鎭兵の擾騷を發し事大獨立兩黨の軋轢日清兩兵の衝突を生ぜり次で我明治十五年京城の鎭兵は閔族を攻め王宮を侵し、日本公使館を襲ふ、後朝鮮政府償金五千萬圓を出し謝罪す、同十七年獨立黨は事大黨を倒さんと計り、國王の護衛を日本兵士に託せしに清兵は事大黨を助け日本兵士を襲ひ日本公使館を燒く、朝鮮政府亦た償金十三萬圓を出して謝罪す、次で二十七年に至り亂民起り東學黨といふ、日清兩國各々兵を出せしが端なく衝突して遂に一大戰鬪の端を開き日軍勝ち清軍敗れ、馬關條約によりて清國遂に朝鮮の獨立を是認せり、

四、印度

三〇 歴山王の侵入を記せよ

答 印度は支那と等しく世界史上最古の一にして其國名は西方を流るゝ信度河より出で支那人は古く身毒の字を宛へたり、古代歐羅人にして初めて印度に入り其の情況を視察せしものをマセドンの歴山大王とす、即ち西紀前三百三十年頃大王は西方亞細亞を征服して之を統一し其餘力を以て印度に臨む、然れども兵士深く入るを願はず大王即ち軍を

還へせり、又支那人が始めて印度を知りしは西紀後三百三十年漢の武帝の時の事なり、又歐羅巴と印度との間に海上の交通の開けしは西紀後千四百九十八年頃なり

三一 アリア人の侵入を記せよ

答 白色人種の一なるアリア人が裏海の東端より來り土着の印度人を逐ひて始めて文化を開けるは紀元前二千年頃にして信度河の流域即ちパニジャブ地方にして其後アリア人は漸次東方に進み惟河に達し其領域即ち中印度に幾多の小國を建設したるは西紀前一千年乃至五百年頃の間なりとす。

三二 古代印度の宗教を記せよ

答 印度古代の文物中最も著明なるものを宗教とす、宗教に四種あり曰く章陀教、波羅門教、佛教、印度教是れなり、章陀教は最古の宗教にして萬物皆神の主義を唱ふるものなりし

三三 印度の四種民姓とは何ぞ

答 印度に波羅門教興るに及び人民を分ちて四階級とす、四階級とは一に波羅門、二に釋諦羅（シャリトリア）三に吠奢（ベイシャ）四に首陀羅（スーダラ）と稱す、波は僧

侶にして釋は武士、吠は平民、首は賤民なり、即ち波は宗教を掌り、釋は政事軍事を司り、吠は商工を營み、首は耕作、牧畜、雜役に從事する賤民奴隷なり是の階級制度は門閥を重んじ人材を輕んじたるが故に甚しき弊害を生ぜり。

三四　佛教の主義及釋迦の出生を記せよ

答　佛教は平等の主義を採り、寂滅の玄理を說き因果應報の說を立つ其教祖を瞿曇（ゴータマ）即ち釋迦牟尼といふ、印度のカピラ城主の子なり其出生の年月詳かならず然れども西紀前六百年頃なりといふ。

三五　マカダ國とアンドラ王朝と記せよ

答　歴山大王の死後其將セリウカス波斯の故地に君臨し東進して印度を畧取せんとす時に印度のマカダ國の王チヤンドラグプタ資性英邁なりしが變亂に乘じて起りマカダ國を一定し次に諸方を鎭め其領地終に北印度西印度中印度に跨れり、チヤンドラの孫アソカ又武功廣大にして西侵してアフガンを畧す而して大に佛教を中央亞細亞に弘布せり、次でマカダ國にサンガ及カーアンバアの二王朝起りしが南印度の强大なる王朝アンドラ王朝の爲めに滅されたり時に紀元前二十五年なり、

三六　大月氏とは何ぞ

答　アンドラ王朝の時波羅門教勢力を回復し佛教と拮抗して佛教は遂に勢力を中印度に失ひ獨り北印度に行はるゝのみ、其北印度に行はれしは、中央亞細亞より印度に向いて侵入せる人種月氏か之を信奉したるに依れり。抑も月氏は支那の天山南路に在りしが後にアムー河の附近に移住し、國號を立てゝ大月氏と稱す西紀後一世紀に至り勢力甚た大なり、其領土は今日の阿布汗、卑耳斯垣、並に印度の西北兩部皆其占領する所となる、時に其國王カニシカは厚く佛教を信じ盛に其弘布を計る此に於て佛教大に北印度幷に中央亞細亞に行はれたり。

三七　中世印度の黃金時代を記せよ

答　西紀後五百二十年以後凡百五十年間は謂はゆる印度の黃金時代にして此時代の始め北印度のウジヤーナに大豪傑出づヒクラマヤディトヤといふ西印度北印度、中印度を併呑し大に文物制度を興す、其後又二英主あり盛に學藝を奬勵し大に佛教を弘布せり、西紀後六百四十八年唐の太宗兵を發して印度を討つ、次で間もなく印度は四分五裂して統一せず特に西印度には新種族起る其名をラヂヤフトといふ、月氏及其他の印度外の諸族の混淆せるものなり、此種族漸く勢力を得、終に西印度を占領す此際佛教は衰へ、新教即ち印

度教は興れり。

三八　近世紀の印度を概記せよ

答 西紀後七世紀より同十七世紀後に至る間印度は回々教徒數回侵畧して其の割據す處るとなる回々教徒の人種は亞拉比亞人、土耳其人、亞富汗人、波斯人、蒙古人是なり、歐羅巴人は葡萄牙人、和蘭人、英人、佛人なり

三九　帖木兒の事跡を記せよ

答 印度に於ける蒙古人の侵畧中最も著明なるは帖木兒（タメルラン）の侵畧並に其玄孫バーブルの侵畧とす、帖木兒は有名なる蒙古の建國者鐵木眞の後裔にして西紀後十四世紀の末印度大に亂るゝや帖木兒亂に乘じて印度に入り其西北部を服す次で其支那に寇せんとして去りし後印度復た大に亂れじが西紀後千五百二十五年其の玄孫バーブル印度に入りて大國を建設す是れ所謂ムーガル朝廷（莫臥兒帝國）なり、（帖木兒の雄圖は中央亞細亞の部に詳說）

四〇　莫臥兒帝國の創立を記せよ

答 バーブルは千五百二十五年印度河を渡りてローヂ朝を滅しデルハリを畧してモーガル

帝國を創立し更に領土を恒河の下流に擴張せり然るにヂフマーユンはベルガル汗に逆擊せられ一旦波斯に退きサフイ朝に憑りしが後數年にして亦北印度に歸りてデルハイを恢復せり、次で其子アクバール帝の代ラジユプット諸酋王と婚を通じ異教徒の感情を和らけ兵を率ゐてガブール并にカシユミールを征服しテクハンの北部を征畧し大に版圖を擴張せり、是に於て帝は大に兵制を釐革し租稅法を制定して新たに宗教を擴て躬ら政教上の主宰として領土を統轄し各教徒には信教の自由政權の平等を許しモーガル帝國を確立せり、

四一　莫臥兒帝國の全盛時代を記せよ

答 莫臥兒帝國は西紀後一千五百五十五年に創まり數世を經て千七百〇七年に至る約百六十年間尤も隆盛を極め就中アウラングゼーブの在位五十年間は即ち印度全盛の時期にして皇帝は無上の主權を有し其命令は犯すべからざるものとなりき、帝は深く回々教を信奉し聊か專政壓抑を旨とせしも印度積年の習慣風俗は依然として殘存し帝國都鄙の秩序を保つを得たり各地方にハナワツプと稱する地方官ありて行政司法を掌り地方の情況は四通八達せる大道を通じ郵便法によりて輒く首都に達する事を得たり。

四二　莫臥兒帝國の衰運は如何

答 然るに此一大帝國にはアウランゲゼーブ帝の歿後候ちにして衰へ印度教の抑制を怒れるラージュップットは已に叛亂を起し南印度の印度教徒はマラタ族と同盟を結びて抵抗せり而して内にありては後主庸劣にして武威張らず且つ繼承の紛議續出して國全く亂れ印度教徒遂に獨立するに至り、内政ハナワップの手に移り外已に渡來せる歐人の衝突蠶食するあり印度は實に土崩瓦解の兆候を呈せりき。

四三　印度に於ける歐人の東漸を記せよ

答 歐羅巴人の印度に來りたる者商利を收め領土を開くを目的とせり、其中最初に印度に來りしものは、葡萄牙人なり次は和蘭人なり、其後英佛二國の人來る葡萄牙人は和蘭人との競爭に敗れ、和蘭人は又英人との競爭に敗る、而して英人は佛人との競爭に打勝ちたり、而かも英人佛人を敗りたるのみならず印度の諸侯を壓倒して印度全土を統一せり、印度統一に就て大功ある者二人あり、クライブ及ヘスチンクス是れなり二人共に英國所設の印度商會の頭取なり、

四四　暹羅の歴史は如何

答 暹羅は古來老撾、暹、羅斛の三國に分れ七世紀の初年を以て始て支那に通じたり、十四世紀の半頃羅斛王プラヲマ、チボデー立ち暹國を併せ都をアユヂヤに定めしが二傳してプラボロムラクサ王に至り明の册封を受けて暹羅王となり爾後歴代入貢を怠らざりき、十二代を經プラナレッド王に至り國威頗る振ひ外は明と通して緬甸を攻め、内は外制を立てたり當時日本が明と朝鮮に戰ふや王は師を率ゐて日本を衝かん事を明に乞へりき、尋で十七世紀の初プラサヨノソンタム位に即き日本人山田長政を用ゐて逸比留侯となし日本に通じ又六昆呂宋に通じて國威大に振へり然れども王位を簒するに及び長政其の毒手に斃れ爲めに日暹兩國の交通も又絶へたり其後暹羅は内訌數々起り、後鄭昭なるもの起り内亂を一統して都を盤谷に定め清の高宗の封を受け暹羅國王となれり、

四五　暹羅の開國せし事を記せよ

答 暹羅は東蒲塞王位繼承の事に關し屢々越南と戰ひ遂に東蒲塞南隅の三州を得て和を結びぬ次でマングート王嗣立し專ら開國の方針を採りて英佛諸國と通商條約を結び、漸次歐州の文明を輸入して内治の改良を圖り日本とも修交條約を結びぬ但し其後佛國の迫る處ろとなりて遂に眉公何東の地を失ふに至れり。

四六　緬甸の歴史を畧叙せよ

答 緬甸は大理の南に在り夙に印度恒河々畔の地と交通し十一世紀より十三世紀に亘りて國勢頗る振び、國都パガンに於げる建築物は今日に至るも猶存せり、然るに元の大理を平げたる後使を遣はして之を招降せしも敢て命を奉ぜざりしかば元の爲めに討平せられ遂に元の封爵を受けたり尋で東方の掌人起り勢を張りしが久しからずして衰へたり、十六世紀の初タウング家強盛を極め阿瓦（アヴ）阿臘干（アラカン）を併せ東は欵を大越に通じ東北は明と相應じて邊境の諸土司を征したりき其後タウング家は歴世驕奢濫費の弊を受けて大に疲弊せしが明の神宗暹羅と約し挾擊しタウング家衰へ更に一新王家阿瓦に勃興し琵牛を併せて以て十八世紀の半頃に至れり清の初に至り琵牛は和蘭人の援を假り阿瓦を擊ちて全く其他を併せしが阿瓦は木疏のアロンバラー出でゝ王となるに及び琵牛を併せ更に暹羅と戰ひて大に之れを破れり二傳してゼムヘンに至り清と隙を生じ數回交戰に及びぬ尋で千七百六十六年セムペンの子嗣立するに至り驕暴殺を好みしが人心離畔し叔父ボドーパ代りて即位し王阿臘干を略し暹羅と戰ひて之に克ちしが其後更に英領印度と葛藤を生じ以來兩國の衝突益々甚しく緬軍のアッサムを征しベンゴールの北境に入るや二國の平和破裂して緬甸は戰破れて阿臘干外二地を割き償金百萬磅を出せり、尋で千八百七十八年チーボー王位に即き驕暴比なくイラワーヂー河上に航する英船に對し

て重税を課せんと欲し私かに歐洲諸國に乞ふ處ありしかば緬英二國の平和又破れ英軍遂にマンダレを陷れ國王を擒にし其領土を擧げて英領印度の一部となせり時に千八百八十六年なり

四七　安南の歴史を畧記せよ

答 東京、安南、交趾と稱する地方は上古支那人先ッ交通を開きたり其の年代は周の代なりともいふ、此の地方邦國の興亡頻繁にして一々記するに堪へず、要するに支那の歴史は此地方を以て其の屬國と見做せり宋の世交趾に吳氏ありしが衰へて群雄亂を爲し尋て安南國の刺史丁部領遂に之を一統して自ら大勝王と稱しぬ、大將黎桓なるもの丁氏に代りて王となりしが黎桓の死後三傳して丁氏の衰ふるや國内亂れ豪族の自立となる、其後朝を代ふる事數回李天祚に至り國大に富み南洋諸國緬暹等と屢々交通し宋の孝宗の封を受けて安南國王となれり、然れども王の歿後國勢衰微して紛亂絶ゆる間なく李氏倒れて陳氏之に代れり、尋で元の世祖の時一時封爵を受けしが間もなく元に背きて交戰すること二回に及べり。其後屢々占城の來冠を受けしが陳氏の朝衰へて黎氏代りしが明の成祖は陳氏の遺族を援くるを名として安南を伐ち黎氏父子を檻にし交趾布政使を置きて之を治めたり西紀後十七世紀の頃安南又分裂し占城、東蒲塞と屢々兵を交へ、内亂外冠頻發せしが此頃より佛人南亞の地方に商權を振ひしが、是等南越諸國の國亂に乘じて侵

略を選ふし十八世紀に至りて此等の邦國皆自立する事能はず或は佛の領地となり或は佛の保護國となれり。尋で千八百六十一年佛國は交趾を所領とし其の翌年又東蒲塞を保護國となせり、其翌々年に至り東京を領とし安南をば保護國となせり。

四八　安南に於ける清佛の衝突は如何

答 清國は元と安南を以て自家の藩屬視したりしに内亂のために佛國の援助を請ふに至りしなり其保護國となりしを以つて清廷は曾紀澤を佛國に派して頻りに異議を唱へしめしと雖も總理大臣フエリー固く執つて動かざりしかば清廷遂に之に屈して佛國の主權を認許せり、是に於て佛軍は進んで諒山の鎭臺を占有せんせしが清國の守兵突然之を襲擊するに及で兩國の平和忽ち破れ佛國は海陸に軍を發して清國に向はしめ海軍はクールベー之が主將となり歐洲の清艦を沈滅せしが此時偶々フエリー内閣倒れて佛國の外政一變し兩國互に一歩を讓り和を天津結び以來安南外二地の主權は依然として佛國に歸せり

四九　葡人の來侵を記せよ

答 十四世紀の末より十五世紀の初に亘り歐洲諸國の形勢一變して各國競ふて新陸地の發見拓殖に從事せり殊に印度は夙に歐洲人の涎を垂れし豐土にして之が通商の便路を發見せんと欲せしもの其數少からざりしが十五世紀の終に至りバスコデガマといへる者葡

王の命を奉じ始めて佛南一周の新航路を開き印度の南端なるカルカツタに上陸して其地の牧長と通商の約を結べり是より葡人は續々渡來し印度の西岸及東印度諸島に貿易を開き且つ頻りに領土を取りて民の用に供せり、而して葡國政府は葡領印度太守を置きて之を統轄せしめしかば其勢威益盛んにしてゴア錫蘭マラツカ等の諸要地は皆其手中に歸するに至れり

五〇　蘭人の來侵を記せよ

答 和蘭人の始めて印度と通商を開きしは十六世紀の末年にして葡人に後れし事殆んと一世紀なりしに其商人極めて機敏にして漸く葡人の商權を奪へり、殊に蘭政府は當時新たに西班牙と分立して盛に海上の權を競ひ和蘭東印度商社を立てゝ東洋貿易を奬勵したりしかば其勢ひ彌々振ひて遂に葡の領土を奪略しマラツカ、錫蘭カルカツタ、等に商館を開きて一時は東洋貿易の全權を掌握し其餘響は引いて我日本に及べり。

五一　英人の來侵を記せよ

答 英人は西紀千五百九十一年を以て始て印度の各地と通商の約を結び蘭人に倣いて東印度商社を設け先づ葡人と戰つて之を破り尋て蘭人と戰端を開きて初めは常に失敗せしと雖も後ち漸く勢を得て蘭領の要地を奪ひ遂に全く和蘭東印度商會を仆して更に佛人

と戰端を開けり、當時英人の領有は大陸にてはボムベイ、マドラス等の數市あるに過ぎざりしが其屬舍は遠く爪哇ストマラ暹羅等各地に建設せられたり、

五二 佛人の來侵を記せよ

答 佛人も又英人に次て印度と通商を開き西紀千六百七十四年には佛の東印度商社をポンチリーに立て頻りに英人と商權を爭ひたりしが、チウプレー其の總督に任ぜられるゝに及びて始めて印度蠶食の雄圖を擁き偶々莫臥兒帝國分裂して諸侯互に攻伐を事とするに乘じ一を滅して一を懷くるの策を用ひポンチリー附近の數國を定め佛人の勢威日に振ひてヂウプレーの威名は印度諸侯の心膽を奪ふに至れり

五三 クライブの偉業を記せよ

答 クライブは英國東印度會社の書記にしてマドラスにあり、ヂウプレイの陰謀を察し其反對に出で佛人と通ぜるカーナチック侯を討滅してアーコット侯の急を救ひ全く佛人の勢力を殺ぎて英人の威力を印度の全土に確立せり而して千七百五十六年に至りベルガルの土侯スラヂツアドーラは故ありて英のカルカツタの貿易場を蹂躪せしかばクライブは陸軍總督となりて之に向ひ大に其兵をプツツセーに破りて翌年ベルゴルの稅政及民政を奪へり是に於てクライブは東印度會社より其總督に任ぜられ更に兵を出して佛の領有を略し且つ蘭軍の土侯を援けしものを破れり

五四 印度諸侯の覆滅を記せよ

答 クライブの健康を破りて英國に還るに及びベンユルオウドの二侯は共に聯合して莫臥兒帝の兵を戮せ英人とバサールに戰つて遂に大敗を取れり、是に於てヘスチングはクライブに代りて印度に來りベゴンルを沒して英領となしオソドを屈して保護國となし、莫臥兒帝には年金を與へて之を懷けたり此の如く英人は印度を呑みしに拘らず各地の土侯は猶是に反抗して次第に其領土を削除せられたり、即ちマイソル侯は十八世紀末年を次て領土の半を削られ、マーラツタ諸侯は今世紀の初年を以て英將ウエスレーの爲に討平せられ、シンドは千八百四十一年に至りて敗亡しパンヂヤブのシクスは千八百四十九年に至りて征服せられ其他の諸侯或は斷絶を以て國を除かれ或は暴虐を以て殲滅せられたり

五五 印度が英國女皇の直轄となりし次第を記せよ

答 當時印度人はヒンヅト及モハメッドの二教を奉じて夙に英人の跋扈を憤慨せしが其新に軍艦を造りて之を土兵に領つに至り藥筒の事に關して宗教的の紛亂を起し土兵遂に叛旗を飜へして各地の英人を虐殺し臥莫兒帝を謀主に仰ぎ不遇の諸侯を誘導し西はデリ

ーより東はパトナに至れる一帶の地を攪亂せり、是に於て英人は二年の歲月と一億五千萬弗の軍資を費して漸く之を平定し莫臥兒帝國を滅し與謀の諸侯を罰し且つ東印度商社を撥して印度を英國の直轄とし女皇ビクトリアは千八百七十七年を以て印度皇帝の尊號を加へぬ。

七、歐人の東漸(二)　(西比利亞及中央亞細亞方面)

五六　哥薩克の東侵を記せよ

答　西比利亞は元と丁零、黠戛斯等の住みし所ろにして明代よりは露の金黨の支族之に據つて西比利汗と號したりしが、十六世紀の下半紀に至りて哥薩克人の爲めに討滅せられたり、當時哥薩克人エルマークといへるものあり露人に攻擊せられて居所なきに苦み、其徒八百人を率ひて烏拉爾（ウラル）山を越へ行々諸部落を下して遂に西比利汗の居城に迫り悉く其地を奪つて之を露帝に獻ぜり是れ實に露國東漸の第一着手なり後ちエルマークは敵地に敗死して其侵地は悉く蒙古人に恢復せられしと雖も露廷は哥薩克人を用ひて再び之を侵畧せしめ十七世紀の終りには其足跡既にオコツク海岸に至れり

五七　チルチンスク條約とは何ぞ

答　十七世紀の中頃に至りボルヤコフ、ハバロフの二人出でゝ西比利亞の東南部を經營せり即ちボルヤコフはスタノボイ山脈を越へてゼナ河を下り黑龍江を探驗してオコツク海に至り、ハバロフはシルカ河を下り黑龍江に出で江岸の土族を拂いて烏蘇里江邊に至り更に還つて城をアルバチンに築けり、時に清八世祖の世にして未だ力を外に分つこと能はざりしが既にして康熙帝の立つに至り哥薩克人の南侵益甚だしかりしかば帝は愛琿城を築きて之に備へ且つ使を露廷に遣はして哥薩克人の南下を止めしめたり然るにアルバチンの露人は尙ほ依然として其城を保持したりしかば帝は兵を出して之を拔き主將トブルジン子ルチンスクに逐はせたり、然れどもトブルジンは忽ち援兵を得て再びアルバチンに來り帝も又兵を發して之を圍ましめしが既にして露帝アレキサンドル二世のゴローヰンを派して和を議せしむるに至れり帝は內大臣索額圖を遣はして之とチルチンスクに會して平和の條約を結ばしめ悉く露人の侵地を恢復せり時に千六百八十九年

五八　愛琿條約を記せよ

答　支那本部清朝の項參照

五九　伊犂事件を記せよ

答　支那本部清朝の部に在り

六〇　露國の南侵を記せよ

答　露國の對外策は嘗てピーター大帝の定めし所ろにして其の侵畧は常に河海に向いて進めり、蓋し大帝は當時既に世界の大勢を看破し列國の競爭は最早陸上にあらずして寧ろ水上にあるべき事を知りたればなり、露國の南侵に三大路あり第一は黑海を經て地中海に出でんとするものにして事全く土耳其に關せり、第二は高加索地方より進んで裏海の全權を收めんと欲せし者にして事當に波斯に關し、第三はシルアムの三河谷を獲て遂に印度に進まんと欲するものにして其の影響は中央亞細亞、英領印度、阿富干斯坦等に及べり、但し第一路の侵畧は全く西洋史に屬せり

六一　中央亞細亞の侵畧を記せよ

答　露國が中央亞細亞の經營はニコラス一世以後に在り、帝はキルギス人を服して裏海以東の殖民を奬勵し且つ既設の諸要地に城砦を築きて征戰の計を整へしに過ぎざりしがアレキサンダー二世立つに及び先づ兵を出してシル河谷を南侵せしめ、四紀千八百六十

三年には浩罕（コーカン）を滅し其翌年にはサマルカンドを取り尋て千八百七十年にはカシュガル汗を誘はんが爲めに伊犂を占領せり

六二　阿富干戰爭を記せよ

答　初め露國の南侵未だ斯の如く迫らざりし時に當り英人は早く印度の急を察し措く事能はず頻りに阿富干斯坦を引きて其進路を斷たん事を圖れり、然るに當時カブールには內訌ありてドスドモハメッドなる者王位を奪ひシャースーザヤは爲めに國を脫して印度の英人に來投したりしかば印度大總督オークランドは之を擁してドストモハメッドの親交を退け其の止むなくして遂に露國と通ずるに至り所謂義兵を出してシャースザーヤを復位せしめドストモハメッドを捕へてカルカッタに送れり斯くてシャースザヤはカブールの王位に復せしと雖も國人尙ほドストモハメッドを思ふて敢て之に心服せず千八百四十一年トストモハメッドの子アリメーを奉じて亂を作し英國の駐在兵を退けて之を要擊し且つ約に背きてシャースーザヤを弑せり、是に於て英政府はオークランドを免じてエレンボローを印度大總督となしカブールの亂を定めトスドモハメッドを復位せしめ攻守同盟を結びて波斯人の侵入に當れり。

六三 第二阿富干戰爭を記せよ

答 トスドモハメッドの子シーアアリー英を去つて露に通じ印度大總督ロードリットンの修好を拒み其使を國境より逐ひしかば英國はシーア・アリーを中央亞細亞に逐ひ其子ヤリブを立つ、ヤリブも又反きて英公使を殺せしかばリットンは將軍を遣はして之を定めしめアブヅルラマンを立てゝ阿富干斯坦の主となせり既にして英國は從來の政策を一變し露國と協議を開き阿富干斯坦の北境を確定して兩國の爭根を斷てり時に千八百八十五年なりし。

八、最近史

六四 日本の開國始末を記せよ

答 日本は德川幕府の初世より鎖國主義を採りしが十九世紀の中頃米國軍艦浦賀に來りて互市を請ひ翌年通商條約を締結してより露、英、佛、蘭の諸國相續て之に倣へり、其後幕府は內治外交增々多難の形勢なりしが遂に滅亡して維新の大業成り外交上の形勢一變せり。是より先き樺太の境界問題は日露間に於て久しく決せざりしが千八百七十五年に至り。露の全權イグナチーフは日本の全權副島種臣との間に樺太交換條約を締結し日

本は千島を領し樺太全島を露國に與へたり。

六五 朝鮮の開國始末を記せよ

答 朝鮮は國祖以來父子相傳ふと五世百三十一年なりしが國王概れ幼弱にして即位しければ太后數々簾を垂れて政を聽き外戚隨て權を專にし金氏の一族殊に甚しかりしが千八百六十三年今帝李熙嗣立するに及び生父大院君攝政となり大に廷臣の黜陟を行ひ又大に西人を忌み佛國宣教師及其信徒を迫害せしかば佛國軍艦江華灣に入り砲臺を攻陷し次で又米艦も同島の砲臺を砲擊せり、次で露米日本の通商を拒絕し又日本軍艦の江華灣に入れるを砲擊せしかは日本政府は黑田清隆井上馨を遣りて詰問せしめしかば朝鮮は其罪を謝して更に修交條約を修め釜山の外新たに二港を開き次て英、米、佛、露の諸國も又皆條約を結べり。

六六 臺灣事件を記せよ

答 本邦民の臺灣に漂着して土蕃の爲めに虐殺せらるや日本は副島種臣を全權として清國に遣はし始て條約を交換し臺灣の事を申理せり然るに清は臺灣を化外の地と答へしを以て日本は西鄕從道を都督として兵を率ゐて臺灣を平定せしめ是に於て清廷は急に前言を食み臺灣を所屬なりとして撤兵を求む因て大久保利道を全權として清國に赴かしめ往

復辨論の後英國公使の調停となり清國遂に償金五十萬圓を出して和議全く成れり

六七　日清戰爭の原因は如何

答 支那本部清朝の項に詳なり

▲紀元前

二二〇八　夏の建國
一七七六　殷の建國
一二二一　周の建國迫（箕子朝鮮に入）
七七〇　東周（周室の東遷）
七二二　春秋時代
五五一　孔子
四〇三　戰國時代
三二七　歴山王の遠征
二四九　東周亡
二二一　秦始皇帝
二一五　長城の修築
二〇六　秦亡ふ
二〇二　漢の高祖即位
一九三　漢匈奴と和す
一五四　吳楚七國の叛
一四〇　孝武帝即位
一二七　衛青匈奴を破る
一一五　漢西域に通ず（張騫）
九一　司馬遷の史記成る
六六　霍氏の叛
五七　匈奴五單于立つ　新羅建國
三七　高勾麗建國
一八　百濟建國

▲紀元後

八　王莽
二五　後漢光武帝即位
四五　馬援交趾を征す

五一	匈奴南北に分る
五七	倭奴國漢に通す
六七	迦葉竺蘭漢に入る
八七	北匈奴の衰耗
九四	班超焉耆大月氏を征す
一六六	大秦漢に通す
一八四	黄巾賊起る
一九六	曹操献帝を奉ず
二〇八	赤壁の戰
二二〇	魏曹丕帝と稱す
二二一	蜀劉備帝と稱す
二二九	吳孫權帝と稱す
二三八	魏遼東を平ぐ
二六三	蜀亡ぶ
二六五	魏亡ぶ
二六五	晉武帝即位
二八〇	吳亡ふ、鮮卑大國を創す
三〇一	八王の亂前涼張氏
三〇四	漢前趙成漢
三〇八	代拓跋氏
三一九	後趙(石氏)前燕(慕容氏)
三五一	前秦(符氏)
三七二	佛教高麗に入る
三八三	肥水の戰
三八四	後燕、後秦、
三八五	西燕、西秦、
三八六	後涼、南涼
三八九	拓跋珪魏帝と稱す
四〇〇	法顯印度に赴く
四〇九	鳩摩羅什寂
四二九	魏武帝柔然を征す
五〇二	梁武帝齊を簒す
五二〇	菩提達磨來る
五四八	侯景の亂

五六二	任那亡
五八一	隋高祖即位
五九一	吐谷渾隋に通す
五九八	高麗を討つ
六〇五	隋煬帝即位、渠を穿つ
六〇七	小野妹子隋に使す
六一八	唐の高祖、西突厥入貢
六二七	唐の太宗即位
六二九	玄奘五天竺を周遊す
六三〇	遣唐使の始東突厥を破る
六三二	モハメッド歿
六四五	太宗高麗を征す
六五七	西突厥を破る
六六三	百濟亡
六六八	高麗亡
六九〇	則天武后即位
七一三	玄宗皇帝即位
七一三	大祚榮勃海郡王となる
七四五	回紇突厥を滅す
七五五	安祿山叛
七六五	回紇吐蕃入寇す
八〇六	憲宗帝
八四〇	黠戛斯回鶻を破る
八五九	黨項を平ぐ
八六〇	大理交趾を陷る
八九五	後唐起ん
九〇二	吳起ん
九〇三	前蜀起ん
九〇七	後梁唐を簒す、楚、
九〇九	燕、閩、
九一六	契丹阿保機帝と稱す
九一八	王建高麗を建す
九二六	契丹渤海を降す
九二七	契丹太宗帝

九三七 契丹國號を遼と改む
九六〇 宋太祖後周に代る
一〇〇四 澶淵の盟
一〇四一 西夏大擧宋を侵す
一〇六九 王安石の新法
一〇七五 宋地を割き遼に與ふ
一一一五 金太祖帝位に即く
一一二〇 宋金連合の約成る
一一二二 燕京陷る
一一二五 遼滅亡、耶律大石西遼を立
一一二九 宗室南遷
一一八六 阿富汗全盛時代
一一九二 陸秀夫卒
一二〇〇 朱熹卒
一二〇六 金軍入寇蒙古成吉思汗即位
一二〇六 印度奴隷朝
一二一八 蒙古西遼を亡す
一二二二 蒙古軍魯亞西に入る
一二二七 蒙古西夏を滅す、成吉思汗死
一二五三 忽必烈大理吐蕃を下す
一二六〇 忽必烈即位元の世祖
一二七一 蒙古元と稱す
一二七四 元兵對馬に寇す
一二七九 崖山の役宋滅亡
一二八一 元軍日本を攻めて大敗す
一三五〇 倭寇の始め
一三六六 帖木兒興起
一三六八 明の太祖
一三九七 足利義滿明に通ず
一四〇二 アンゴラの役
一四一四 印度ヅグラック朝の滅亡
一五一七 王守仁叛徒を平ぐ
一五一七 葡萄牙商船支那海に入る
一五二六 バベル莫臥兒朝を立つ

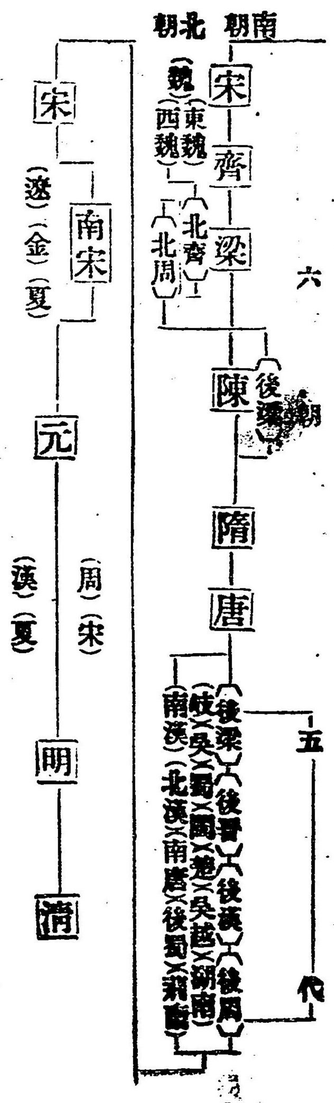
一五四二 葡人大隅種子島に來
一五七一 西班牙マニラ朝を立つ
一五七九 英人印度に達す
一五八三 奴爾哈赤兵を起す
一五九二 秀吉朝鮮を伐つ
一六〇〇 英國東印度會社創立
一六二七 清太宗即位
一六三六 清國號を立つ
一六三九 英人マドラスを建つ
一六四四 清世祖帝清軍入北京
一六六一 鄭成功臺灣に據る
一六六二 聖祖帝即位
一六七三 吳三桂叛
一六八九 尼布楚條約
一六九〇 露人堪察加を畧す
一七一六 康熙字典成る
一七二〇 西藏平定
一七二四 青海を畧す
一七五七 準噶爾鎮定
一七七二 回部の平定
一七七二 ヘスチング總督となる
一八〇二 南越國を立つ
一八〇四 露使レサノツト日本に來る
一八二四 緬甸英と戰ふ
一八三八 第一阿富干戰爭
一八四〇 鴉牙戰爭
一八四九 長髮賊の亂
一八五〇 露人ニコライスクを建つ
一八五三 米艦浦賀に來る
一八五七 英佛同盟軍北京來寇
一八五七 印度土兵叛亂
一八五八 受理條約
一八七四 佛國越南を浸す日本臺灣を征す
一八七七 英女皇印度女帝となる

一八七八　第二阿富汗戰爭
一八八四　清佛戰爭朝鮮甲申の亂

一八八五　清佛天津條約日清天津條約
一八八六　緬甸英領となる

支那歴朝交替一覽表

伏羲
神農
黄帝
少昊
顓頊
帝嚳
唐
虞
夏
殷
周
三代
春秋戰國
（魯）（衛）（鄭）（晉）（齊）（滕）（曹）（許）（燕）
（秦）（楚）（蔡）（宋）（杞）（陳）（吳）（莒）七
三晉
（韓）（魏）（趙）
東周
（秦）（楚）（齊）（燕）
秦
（楚）
漢
後漢
（蜀）
魏
（吳）
晉
（漢）
東晉
五胡十六國
（前趙）（後涼）（前燕）（前秦）
（後趙）（北涼）（後秦）（前涼）
（西秦）（戎）（南涼）（西燕）
（西涼）（後燕）（北燕）（大夏）



六

附錄 最近官立學校入學試驗東洋歷史問題

(三十三年度)

▲第一高等學校入學試驗問題

(一) 薩摩騷亂司馬光の事蹟を擧げよ

▲第二高等學校入學試驗問題

(一) 陸奥戰爭の原因及結果を問ふ
(二) 桓溫の事蹟を擧げよ
(三) ウアスコダガマの事蹟を擧げよ
(四) 汴に關する顯著なる事蹟を記し且其位置を示せ

▲第三高等學校入學試驗問題

(一) 長髮賊の亂を述べ並びに英佛露の清に對する動靜を記せよ
(二) 板都、孛羅(マロコポール)鄭成功、軍機處とは何ぞ

(三) 歴山大王の印度侵入の皇紀と蒙古襲來の皇紀を記せ

▲海軍兵學校入學試驗問題

(一) 商鞅の政治を記せよ。

(二) 伯顏、孔明、帖木兒大王の傳紀を記せよ

▲海軍機關學校同上

(一) 唐以降清に至るまで支那各朝の名を順に記せ

▲陸軍一年志願兵入學同上

(一) 王安石の新法の影響及主なる條目を記せ

▲東京美術學校　同上

(一) 漢高祖爲政の大要、鴉片戰爭の原因、歴山大王遠征の歐亞文明上に於ける戰況を記せ

▲高等師範學校本科　同上

(一) 三韓の名稱及位置を問ふ

(二) 阿片戰爭の顚末記せよ

(三) 左の人名に就きて知る所を記せ（年代事業等）

商鞅、支非、朱熹

（三十四年度）

▲商業師範學校官費專修科

(一) 露西亞の極東侵畧を叙述せよ

(二) 漢人種以前の種族にして支那內地に建國せしもの五國以上を列擧せよ

(三) 陸象山、マルコポール、晉國藩に就き年代事業を記せよ

▲郵便電信學校入學試驗

(一) 明治七年臺灣役の顚末を記せよ

▲陸軍士官候補生志願者

(一) 秦の始皇帝の政畧如何

▲海軍兵學校入學問題

(一) 蒙古帝國の四大汗國の名及各其始祖の名を記し且つ被都の興亡を畧記せよ
(二) 阿片戰爭の顚末を記せ
(三) アレキサンドル大王の事業を畧記せよ

▲商船學校入學試驗問題

(一) 唐室反亂の重なるものを擧げよ

▲外國語學校入學試驗問題

(一) 夏より現時に至るまで王朝興亡の次第を表示せよ

▲高等師範學校官費專修科

(一) 秦の始皇帝の事業、張騫、吳三桂の人名に關する顯著なる事蹟を擧げよ
(二) 臨潢、王舍城の地名に關する事績を擧げよ

▲第一高等學校入學試驗問題

(一) 宋代に於ける儒者の學風は如何
(二) 張騫の事蹟を擧げよ
(三) チルチンスクの條約とは何ぞ

▲高等商業學校入學試驗

(一) 印度に於ける英國の勢力は如何にして樹立せられしか
(二) 宋に於ける朋黨の弊を述べよ

▲東京美術學校入學試驗問題

(一) 秦の始皇帝の事蹟
(二) 宋朝の名臣
(三) 獨逸の東洋政畧は如何
(四) 明治三十三年清國に於ける聯合軍組織の原因

▲高等師範學校豫科入學試驗問題

(一) 露西亞の中央亞細亞侵畧を記せよ
(二) 韓非、拔都、顧炎武の事蹟を記せよ

(三) 北林、汴京に就き知れる處を記せよ

▲陸軍士官學校入學試驗問題

(一) 古朝鮮の起源

(二) 西漢、三韓、及日本國間の關係を記せ

新撰 東洋歷史問答 終

明治卅五年七月十三日印刷
明治卅五年七月十八日發行

(東洋歷史問答)
定價金貳拾錢

編者 松原岩五郎
發行者 大橋新太郎 東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷者 水谷景長 東京市本郷區丸山福山町六番地
印刷所 合資會社博進社工場 東京市小石川區久堅町百〇八番地

著作權所有

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

受驗問答叢書

全部廿四冊
袖珍洋綴一冊
紙數二百四十
頁六號字

本年中發行目次

第壹編●新撰日本地理問答　上村左川君編
第貳編●新撰日本歷史問答　宮田修君編
第參編●新撰世界地理問答　武田櫻桃君編
第四編●新撰東洋歷史問答　松原岩五郎君編
第五編●新撰西洋歷史問答　長谷川誠也君編
第六編●新撰國文問答　鷹野勇雄君編

第七編●新撰漢文問答　大田才次郎君編
第八編●新撰算術問答　竹貫登代多君編
第九編●新撰代數問答　竹貫登代多君編
第拾編●新撰幾何問答　竹貫登代多君編
第拾壹編●新撰物理問答　上村左川君編
第拾貳編●新撰化學問答　武田櫻桃君編

◎第拾三編以下は明年の出版に掛れり本年先づ此十二冊を發兌し受驗用として學生諸君の資料に供すべし。

定價（一冊金二十錢◉六冊金壹圓十錢◉十二冊金二圓十錢◉二十四冊金四圓◉郵稅壹冊金四錢◉一冊紙數二百四十頁）

博文館發兌

受驗問答叢書第一編

中學世界主筆上村左川君編

新撰日本地理問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

日本地理の書甚だ多し然れども普通の編纂法は煩冗散漫に失して暗記と早通に便せんには問答書の簡明適切に及ばず此編は主として中學程度以上各學校入學受驗者の爲めにせる書にして官立諸學校最近の入學試驗問題を標準として無數の新題を假設して努めて冗を避け要を摘みて簡明なる解答を爲し地理總論より(地文)全國各道に區分し凡そ日本地理地文上の問題を網羅し盡して餘すなく且つ同種に屬する問題は悉く之を一欄に類別したれば一見して夥多の題目に早通するを得べし學生諸氏は此書に付て研究せは普通の地理書によるよりは頗る僅少の時間を以て日本地理に精通し如何なる問題にも解答に苦しまざるべし編末には參考として最近二三の各學校入學試驗地理問題を集錄せり

博文館發兌

宮田修君編

第二編

新撰日本歷史問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

日本歷史に關する書頗る多しと雖も中學程度以上各學校入學受驗者の便益に資するものは甚だ稀なり偶々是れあるも煩冗杜撰にして編纂其當を得ず本書は主として最近の入學試驗問題を標準として無數の新題を設け努めて冗を避け要を摘みて簡明なる解答をなし上古中古近世及今代に區分して凡て日本歷史上の問題は網羅して漏す所なく指導し讀者をして自在に了得せしむる故に學生諸氏は此書に就て研習せは僅少の時間を以て日本歷史の要義に精通するを得べし

20/4/37

武田櫻桃四郎君編

第三編

新撰世界地理問答

全一冊洋裝袖珍
正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

本書は受驗實用として世界地理の要領を問答体に簡叙せしもの先づ初めに於て地理學綱領より天文地理、地文地理、人文地理を詳明し續て亞細亞各國地誌、歐羅巴各國地誌、亞弗利加各國地誌、南北亞米利加地誌の四大區別を立ち章節數段に分ちて難解の問題を明了に解答せり、此種に關する書藉世に少なからざるも親切學生の實用を目的とせしもの本書を措て他に求むべからず。故に學生諸氏は此書に就て研究せば僅少の時間を以て世界地理の要義に精達するを得べし

博文館發兌

六

醫學得業士 首藤環君編纂 (製本既成)

醫術開業 前期

試驗問答叢書

洋裝上製
紙數五百頁
正價六拾錢
郵稅八錢

本書は明治二十五年以降同三十五年第一回に至る間東京及長崎京都大阪熊本仙臺の各地に於て施行せられたる内務省醫術前期試驗問題を聚集し編纂の上整理したるものにして異問同意義の問題は一問題となし前年度に於ける同問題は之を削除し每問簡明にして秩序整節なる答案を附し或は圖を挿み讀者をして極め て記憶し易からしめたり而して此一小冊中に日進確說の學理を網羅し且つ携帶快讀に便ならしめ優に世間類書の上に斬新の面目を存するは本書の特色なり苟も醫業に志すの士は机上の友とし斯學界の參考書として緊要適切なり宜しく受驗諸君之を購讀せば試驗場裡幾多の難問に遭遇すと雖答案の平易に解說し得べく實に一身立脚礎磐たることを信す

博文館發兌

七

文學士 幸田成友君著

東洋歷史

全一冊 洋裝菊判

上製金五拾錢 郵稅十錢

並製金卅五錢 郵稅八錢

[illegible]史に古今の區別無し、過去を知るに非ずんば安ぞ能く現在を[illegible]得ん、西力東漸の由來する所深きを明め、併せて今日の世界の日本として、東亞に於ける地位の多難多望なるを[illegible]欲せば、須らく本書を一讀せよ、本書は古來東洋の天[illegible]動せし諸人種の興亡盛衰を叙述せる一新好著にして總論[illegible]は先づ東洋と西洋の關係及び亞細亞洲の地理を詳論し而[illegible]史を八期に分ち第一期には上古より秦の一統に及び第二[illegible]進んで三國の分立に及び第三期には隋の一統まで第四期[illegible]の滅亡に及び第五期には蒙古の勃興まで第六期には歐人[illegible]七期には清の衰運に及び、而して第八期として日清戰爭[illegible]期く著者識見卓越考證精確毫も間然する所なし東洋[illegible]國無比の良典なり。

94
80

049582-000-3

94-80

新撰東洋歷史問答

松原　岩五郎／編

M35

BEM-0278